

眼瞼検査—眼球突出検査



目的

眼球突出の程度と左右差を測定しての眼窩周辺異常の診断の補助検査

方法(1)視診による方法

準備物 特になし

被検者を座位させ、検者は被検者の頭の前上方又は後上方から見下ろす

眉毛を基準にして眼瞼の高さを観察し、左右差を比較する

判定基準)

左右差の有無のみ

結果・判定例)

眼球突出
R>L



坂上達志: 視能学 P241 図 17

方法(2)万能距離計による方法

準備物 万能距離計

検者は被検者の眼と同じ高さに自分の眼が位置するようにし、被検者に大きな眼を開けてまっすぐ前を見るように指示する

被検者の検査眼の眼窩縁の窪みを確認し、万能計の下縁中央付近を持ち、①に沿って左右を間違えないように万能計のカーブ②に合わせて直角に立てる

検者は③の窓から被検者の角膜頂点の位置を片眼にして目盛を読む

万能計の当て方と圧迫の力によって再現性に限界がある。

結果・記載例)

R: 11mm
L: 12mm

判定基準)

日本人の眼球突出度

平均値 : 13 mm 検査法ハンドブック第3版 P222 12~14 mm 視能学 P216

正常値 : 11~17 mm 検査法ハンドブック第3版 P222

18 mm以下 現代の眼科学改訂第11版 P291

正常 : 左右差 2 mm以下 視能学 P217

現代の眼科学改訂第11版 P291

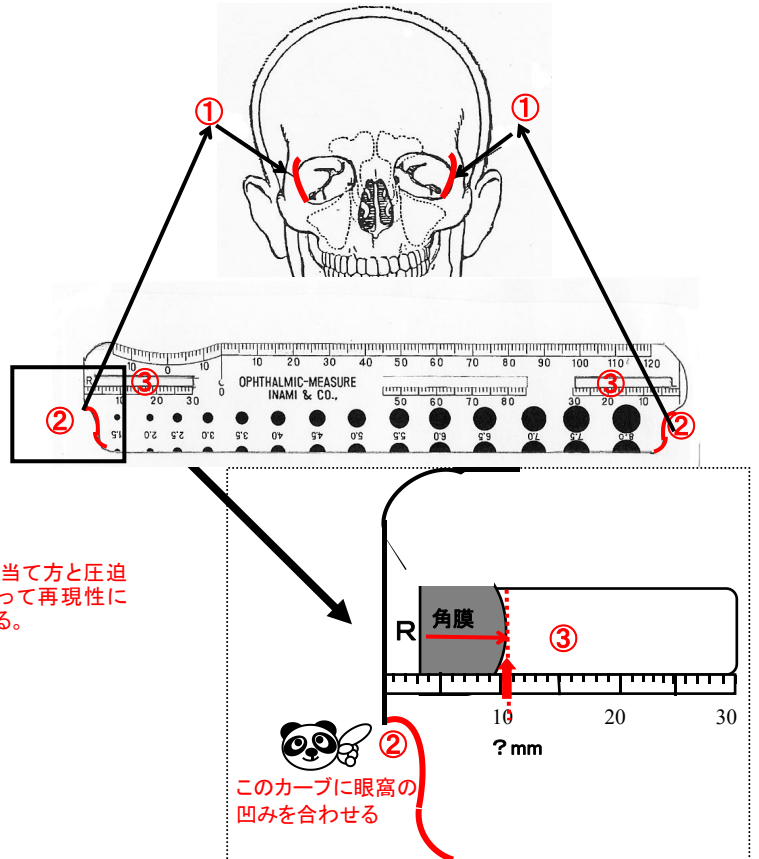
病的 : 左右差 3 mm以上 視能学 P217 2 mm以上 検査法ハンドブック第3版 P222

左右差の有無が大事! 診断的価値が高い。

判定例)

左右差なし
正常範囲内

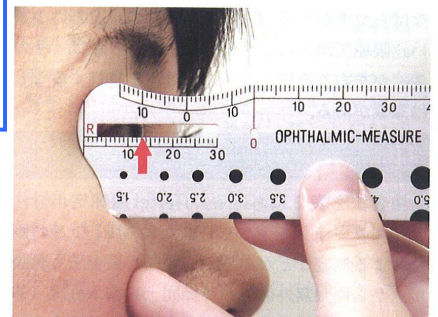
図は眼球突出計と万能距離計の説明書より



このカーブに眼窩の凹みを合わせる



個人差が大きい。



西田保裕・柿木雅志: 眼科検査ガイド P722 図 4

方法(3) Hertel 眼球突出計による方法

準備物 眼球突出計

図は眼球突出計の説明書より

被検者を座位させ、検者は被検者の眼と同じ高さになるようにする

次回眼窩縁間測定値をセットしてから行くと、誤差が最小限となるよ！

①を動かして大よその眼窩縁間距離にし、眼窩縁②(棚受けのような位置)に眼球突出計の③の凹面接部をあてがい、①を微調節する(距離の測定値を記載しておくこと)

検者は被検者の検査する方の眼の対面眼を開瞼し他眼は閉瞼する

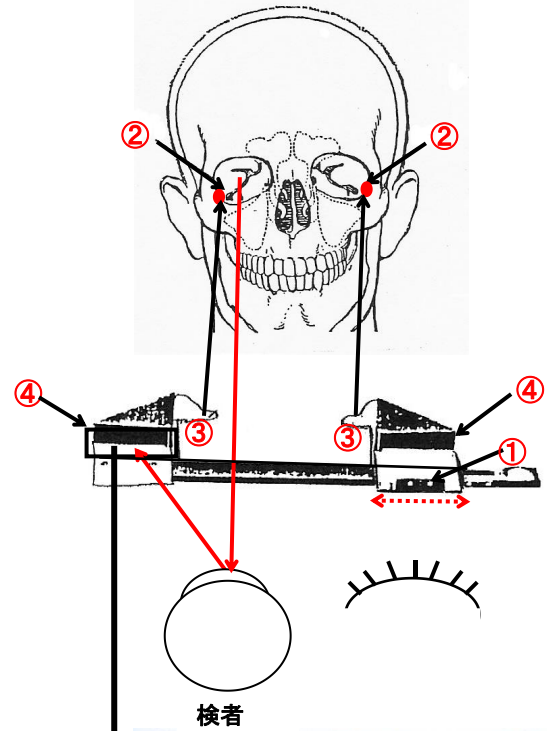
被検者には検者の開いている眼を見るように指示する

検者は片眼にて検査眼のプリズム内④の2本の赤線が1本に重なって見えるように少し顔を水平に動かし、重なったらその時のプリズム内の角膜頂点の目盛りを読む

2本の赤線を1本にするのは目盛との視差をなくすためだよ。



西田保裕他:眼科検査ガイド P722 図3 に加筆



周信夫:眼科診療プラクティス 18P175 に加筆

④プリズム内

顔を水平に動かし、赤線を1本にする。

注意！決してこの赤線ではなく、角膜頂点での目盛りを読むこと！

結果・記載例)

眼窩縁間距離=96mm
R: 15mm
L: 16mm

判定基準)

日本人の眼球突出度

平均値 : 13 mm 検査法ハンドブック第3版 P222 12~14 mm 視能学 P216

正常値 : 11~17 mm 検査法ハンドブック第3版 P222

18 mm以下 現代の眼科学改訂第11版 P291

正常 : 左右差 2 mm以下 視能学 P217

病的 : 左右差 3 mm以上 視能学 P217 2 mm以上 現代の眼科学改訂第11版 P291 検査法ハンドブック第3版 P222

左右差の有無が大事で 診断的価値が高い。

個人差が大きい。

判定例)

左右差なし
正常範囲内

自分の結果を書いておこう！